

水道水の安心と信頼に向けて

～水道GLP認定～

水道水は、日々の生活で欠かすことのできない大切なものです。

当局では、皆様に安全な水道水を安心して使っていただくため、200項目以上の水質検査を行っています。

当局の水質管理体制の中核を担う水質センターでは、水源水質の調査や監視、水源の水質汚染事故への対応、各浄水場の原水から給水栓にいたる水質基準項目等の水質検査、水質管理に係る調査研究、その他水質的な問題が生じた場合の対応等を行っており、これらの結果や情報等を浄水処理に反映させています。

この度、検査精度のさらなる拡充・強化を図るため、水質センターでは水道水質基準全項目を対象とした水道GLP(水道水質検査優良試験所規範)の認定を平成24年8月28日に取得しました。

今後とも、水道水の安全・安心に対するお客様の信頼を得られるよう、検査体制のより一層の強化に努めてまいります。



水質センターでの検査風景



～GLP認定証～

環境保全への取り組み

水道事業は、環境と大きな関わりがあります。皆様が毎日使用している水道水は、河川や湖沼にある水を原料として作られています。その一方で、水道水を作って皆様にお届けするまでの間に、多くの電力を使用するなど、環境に負荷を与える面もあります。このため、水道局では以下のような取り組みをしています。

(1)再生可能エネルギーの活用

水道局でのCO₂排出量の大部分は、電気使用によるものです。水道局では、水道水の安定的な供給を確保しつつ、電気使用量の削減に努めています。

例えば、マイクロ水力発電*や太陽光発電を一部の施設に導入し、施設で使用する電力の一部を発電しています。

*マイクロ水力発電:浄・給水場から給水場への送水の際に生じる余剰水圧を利用して発電する設備。

現在、幕張給水場と妙典給水場で稼働しており、北船橋給水場でも設置を進めております。

(2)省エネルギー化の推進

浄・給水場の電気設備等を、省エネルギータイプのものに順次更新しています。

(3)資源リサイクルの推進

浄水過程で発生した汚泥(原水に含まれていた濁り成分など)は脱水処理した後、セメント原料などにして再資源化しています。



太陽光発電パネル(ちば野菊の里浄水場)

桜の季節 千葉高架水槽及び栗山配水塔 見学会

千葉県水道局千葉分場構内の「千葉高架水槽」、栗山浄水場構内の「栗山配水塔」の両施設は、完成後70年以上を経過した現役の水道施設です。県民の皆様に見学していただけますよう、ご案内いたします。申し込みは不要です。当日は直接会場へお越しください。

●千葉高架水槽

日時:平成25年4月6日(土) 予定
(詳細は、3月上旬頃ホームページに掲載します。)

住所:千葉市中央区矢作町670 千葉分場



行き方:
JR千葉駅東口12番バス乗り場から千葉中央バス「蘇我駅東口行(矢作経由)」でバス停「水源橋」下車徒歩約3分。
JR千葉駅東口1番バス乗り場から千葉中央バス「大宮団地行」でバス停「旭町」下車徒歩約7分。

【ご注意】 ●公共交通機関をご利用ください。 ●浄水場の見学は出来ません。 ●ペット同伴での入場は出来ません。

◆問い合わせ先

千葉県水道局技術部浄水課「桜の季節見学会」係
043-211-8685 (平日 午前8時30分から午後5時15分)

◆その他

- ①3月上旬頃、千葉県水道局ホームページに掲載いたします。
(<http://www.pref.chiba.lg.jp/suidou/index.html>)
- ②入場の際には受付にて住所、氏名を記載していただきます。

●栗山配水塔

日時:平成25年4月6日(土) 予定
(詳細は、3月上旬頃ホームページに掲載します。)

住所:松戸市栗山198 栗山浄水場



行き方:
北総線「矢切駅」下車徒歩約5分。
JR市川駅北口1番バス乗り場から京成バス「矢切駅経由 松戸駅行」又は「松戸車庫行」でバス停「栗山」下車徒歩約2分。
JR松戸駅西口3番バス乗り場から京成バス「矢切駅経由市川駅行」でバス停「栗山」下車徒歩約2分。

湯西川ダムが完成しました



昭和57年から国が建設を進めてきた湯西川ダムの完成式典が平成24年10月6日に行われました。当局では、湯西川ダムの完成によって、より安定的な給水を行えるようになります。



- 所在地: 栃木県日光市湯西川
- 河川名: 利根川水系湯西川
- 型式: 重力式コンクリートダム
- 堤高・堤頂長: 119m・320m
- 総貯水容量: 7,500万㎡

湯西川ダムは、利根川の支流である鬼怒川の上流ダム群の4番目のダムとして、国の直轄事業として昭和57年に実施計画調査に着手以来、建設事業が進められてきました。

千葉県水道局の貴重な水源として水需要を支えるとともに、流域を洪水の被害から守ることなどを目的としています。

